

第1回 新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン策定委員会 部会

日時：平成26年5月28日（水）19：00～21：00

場所：日田市役所7階 中会議室

次第

1. 開会
2. 農林振興部長挨拶
3. 部会員紹介（自己紹介）
4. 議題
 - （1）ビジョン策定にあたって
 - （2）日田市のあらたな森林・林業・木材産業に向けて
 - （3）日田市の森林・林業・木材産業の課題
 - （4）現状分析と課題抽出に向けた調査
 - （5）第1回策定委員会での意見集約
5. 意見交換
6. 部会長・副部会長選出
7. その他
8. 閉会

【質疑応答・意見交換】

部会員

九経調資料の製造品出荷額の単位が（百万円）となっているが、桁が違うのではないかな？

事務局

確認したところ、（百万円）で合っている。

部会員

九経調資料7ページの課題に「無垢材から集成材」へと書かれているが、日田市は木材集積地であり、大型の建設物に関しては集成材が必要かもしれないが、日田市が生き残る道としては、無垢材の乾燥ではないか。集成材は日田の進むべき道ではないと考える。最終消費者の意識変化については、日田市が木材の提供事業を実施しているが、提供を受けた人は、経済的観点からは良かったかもしれないが、「日田材」ということに対する意識は薄かったのではないかな。せつかく提供するのであれば、使う方の意識変化をもたらすような、学習の機会を設けるなどするべきだ。「条件付」の提供が必要だ。消費者の意識改革をもたらしたかどうかの検証をして欲しい。

部会員

事前資料で配布された前回の「新日田林業構想」に目を通したが、今回九経調の資料に記載されている課題とほとんど変わっていないのではないかなという印象を受けた。また、同じような内容のビジョンになるのではないかな。事務局としてどのように考えているのかな。

事務局

今回は、前回の構想の検証も含めた調査を実施する予定である。その中で、20年経た現在でも依然として課題として残るものは、ビジョンの中に記載していく。また、今回のビジョンは出口戦略に重点を置きたいと考えている。

部会員

資料8ページに記載してある「これからの調査」を見る限りでは、そのような出口戦略に関係する調査項目が見あたらないのではないかな。

事務局

「市内関係者ヒアリング」では工務店などへのヒアリングも予定している。

部会員

林業で儲かることができれば、全てが変わってくる。どうにもならないので、小規模林家

などは放置せざるを得ない状況となっている。それらを取りまとめる森林組合も大変である。川下に向けての発信が重要である。当事業体でも情報発信をしているが、反応してくれる人は一部に限られている。今後、さらなる情報発信が必要だと考えている。この部会で何かをまとめようとしても、部会員として何を発言して良いかわからない。どうせなら「夢」を語った方がよい。

事務局

今回は、ピンポイントの施策の策定ではなく総合的なビジョンの策定である。今回は部会員の現場感覚としての喫緊の課題や、今後どのようにしていきたいかなど、フリートークの形でお願いできればと考えている。

部会員

山林所有者側の問題点を述べたい。昨年以降、組合に自分の山を手放したいという話が出てきている。ほとんどが小規模山林所有者である。相続したものの、境界線がわからない、税金がとられるなどの相談である。森林組合としての対応が1つ課題だ。また、SGECの森林認証をとったが、メリットはなかった。森林組合の経営方針を外部に知らせるためにとったのだが、川下、家を建てる方までに周知されるような流れができて欲しいと思う。どのような山から出てきた製品かなど、トレーサビリティが確立されたら良いと思う。もう一つは木育の話である。日田の子供は林業について知らない人が多い。日田市内学校であれば、1学年に1回程度は、日田の林業や水源の学習の時間があって良いのではないかな。そこで勉強するための教科書を環境税や日田市の予算などで作成してはどうか。

部会員

当社では森林経営をやっているが、同様の相談を受けることがある。所有しているだけでコストがかかる、先代は山に行っていたが今は行っていない、林業の他に収入がある、などが理由だ。九経調の資料の課題に素材生産コストの低減と書いているが、現状としてはもうこれ以上下げることができないと思っている。林業は労働災害も多く、現場ごとの環境に対応しないといけない。人材育成は大切だと思う。また、樹種構成の偏りが課題として挙げられているが、目的樹種を育てるという施業体系が確立されていないなかで、スギ、ヒノキ以外で何をするのか、良く考える必要がある。基本的には、スギ・ヒノキの資源としての成長量をきちんと評価するべきだ。

事務局

他地域の森林ビジョンでは、天然更新を増やすことが目標とされているものもあるが、日田ではそれが必要かどうかは今後考えていく必要がある。バイオマス発電所用については、それ用の樹種の育成は必要があるかもしれないが、スギ、ヒノキ以外で、どのように経営を成り立たせるのかの議論は必要。それよりも、スギ、ヒノキの「低コスト造林」などを

考えた方が良いのではないか。また、生産コストの削減についても、ご意見の通りで、むやみに高性能林業機械の導入を進める必要があるのかも検討すべき。

部会員

県の試算では、伐採搬出コストが7,000円で、現場では4,000～5,000円となっている。これ以上下げるとなると、機械の導入が必要になるが、実際には機械のリース代の支払いなどが厳しくなる。機械化によって現場で安全に作業できる環境が必要。川下が良くならないと、私たちの現場は良くなれないと思う。消費者の気持ちを汲んで、設計費によって使う材が左右されると思うが、安全、安心に生活できるという製品の良さを消費者に伝えることが必要。

部会員

木の住宅に住んでいる子供が少ないため、大人になってもその良さがわからないと思った。そのため、小学校の保健室に木材の内装の導入を進めた。長期スパンの話しになるが、実際に利用した際にその良さを理解してくれればと思った。市内の小・中学校で6校、福岡でも導入した。導入した学校では評判がよかったが、残念ながらそれ以上の広がりはなかった。木材を知ってもらわなければ普及しないと考える。例えば駅や病院など人の集まる場所に露出させることが必要だと思う。新しく建て替えている学校については、木を使ってくれているところもあるが、建て替え前の鉄筋コンクリートの校舎はコンクリートむき出しのところもあるので、そこに使ってはどうかと思う。市内だけでなく、市外での利用も広めるのが良いのではないか。

部会員

日田のものづくりを中心に取り組んでいる。当社で取り扱うのは小さな木工品が多いので、使用する日田杉の量はわずかでしかないが、日田は木工のまちというのをPRしている。日田の森の中に入ったとき、こんなにすばらしいところがあるのかと思った。皆さんは日常かもしれないが、感動した。今、役物を使って、日田杉の指輪を作っている。木目が美しく、今度東京の展示会に出展する予定だ。家具業者が少なくなったのは、家具販売者が、価格競争に逃げる販売戦略しかとれなかったため、海外産よりも高い国内の家具を売りきれなかったのが原因だ。私たちのような販売側が、価格を下げずにどう価値を伝えていかを考えていかなければ、山側は潤わないと思う。先日、あるお客さんが、日本は外国産の木材を使って、海外の資源を浪費しながら製品を作っていると怒っていた。日本の木材を使うことの大切さを知ってもらうことが重要だ。広葉樹は成長が遅いが、スギは成長が早いので良い材料だと思う。資源豊富な日田は今がチャンスという意識改革が必要。このような場で意見を出し合えるということは、非常に良いことだと思う。日田の将来は明るいというビジョンを描ければと考えている。

部会員

当社は日田市内で 2 大原木市場の 1 つだ。ここに集まる関係者は日田の林業・木材産業をどうにかしないといけないという意識が高いが、日田市の議員はどのように思っているのか聞いていただきたい。先日、県議会議員が視察に来たが、山の現状をあまり知らないようだった。また、現状を深く知ろうという素振りもなかった。そのような議員がいると、上の方にまで日田の現状が届かないと思った。地元である市議会議員の知識があるか、どのように考えているか、アンケート調査をしてもらいたい。

部会員

木育は 3 年前くらいから取り組んでおり、今年も実施する予定だ。木工教室は 20 年くらい開いているのではないかと。木に触れあうことが大切だと思いで活動に取り組んでいるが、木育では、木工教室だけでなく、そこで使う木材がどこでどのように育ってきたのかという学習とセットでないと意味がないと思った。今年は 8 月 3 日に子供とその親に対する木育を計画している。市内のイベントで木工教室を実施するが、参加者の「木」に対する気持ち・尊厳が高まっているという実感があまりない。無料だから参加する、木を持って帰るという人が多い。

部会員

当校では、日田市内の小中学校にグリーンエデュケーション授業の案内をしている。しかし、応募があるのは 1 校のみだ。他の学校は忙しいようだ。林業科の生徒は演習林実習が楽しい、山は楽しいと言う。当科のすごいところは、他校と異なり、生徒の半分以上が林業関連に就職していることだ。だが、生徒が希望する林業の仕事は少ないとは感じる。日田には夢が沢山あると思った。今日の皆さんの話をききながら、このような現場の声を生徒に聞かせたいと思った。

部会員

林業・木材産業が中心だったが、「森林のあり方」を検討していく必要がある。環境基本計画をみると、森と水を豊かにすると謳っている。環境は金にならないため、目を向けてくれないが、日田は林業と環境を両立して、水を豊かにする必要がある。ゾーニングを行政としてきちんとやっていくことが必要だ。ナショナルトラストのような仕組みも必要である。具体的な水源のための森林づくりのビジョンが必要だ。ゲリラ豪雨では、立木による 2 次災害も起こっている。日田は下笠ダム・松原ダムのおかげで大災害は免れているが、流域の整備、森づくりをきちんとしていく必要がある。